

KIGA FOOTBALL CLUB NEWS

～Seize the moment ! Go beyond your limits. ～

1. RESULTS

<平成20年度高校総体サッカー西部地区大会>

「県大会出場ならず、早すぎる敗退」

1次リーグ ◎浜松湖東 ○気賀 浜松日体 天竜林業 佐久間

4/12 (土) 気賀 3-0 天竜林業 (得) 山本2、真瀬

4/13 (日) 気賀 8-0 佐久間 (得) 野田2、山本2、今田、河田、黒柳、大久保

4/20 (日) 気賀 1-1 浜松日体 (得) 山本

4/26 (土) 気賀 0-4 浜松湖東 (得) なし

1次リーグ 2勝1敗1分→リーグ3位敗退

※またしても西部の壁を突破できなかった。新人戦で県大会まであと1歩のところ(ベスト16)で敗れてしまい、今度こそという想いが強かっただけに、1次リーグでの敗退はあまりに早すぎた。

初戦のVS 天竜林業こそ堅さから本来のプレーが全くできずに苦戦したものの、続くVS 佐久間は本来の姿を取り戻し大量得点での勝利となった。

1次リーグ突破のための大きなポイントであり、難しいゲームになると予想されたVS 浜松日体については、予想通り厳しいゲームとなった。お互いにこのゲームにかける気持ちが非常に強く、一進一退の好ゲームであったが、後半残り7分で先制されてしまうという窮地に立たされてしまった。しかし、ここから気持ちを切らすことなく攻め続け、残り時間わずかで⑥山本の個人技から同点ゴールを生み出すことができた。

最終戦VS 浜松湖東については、勝てばグループ1位で県大会決定、引き分けは他ゲームの結果次第で2位、負ければ3位で予選敗退というゲームであった。しかし、立ち上がりから相手のスローペースに合わせてしまい、自分たちのプレーができないまま3失点するという最悪の展開で前半を終えてしまった。後半意地を見せ、互角以上の戦いをしたものの、終わってみれば0-4の完敗でインターハイ西部地区大会の1次リーグでの敗退が決定してしまった。

相手に合わせてしまう、厳しい状況になるまでスイッチが入らない、自分たちで雰囲気を作り出せない・・・精神的なもろさを露呈する結果となってしまった。「言われたからやるという段階からの脱出」、「自分たちで状況を観て判断する」、「自らアクションを起こす」、これからもう一步を踏み出すためには越えなければならない大きな課題である。

<練習試合>

4/16 (水) 気賀 0-1 ホンダU-18 (得) なし

5/ 3 (土) 気賀 1-0 小笠 (得) 黒柳

5/ 4 (日) 気賀 2-1 浜名B (得) 河田、山本 (PK)

5/ 8 (木) 気賀 3-2 ホンダU-18 (得) 山田翔3

5/18 (日) 気賀 4-3 桐陽 (得) 今田2、河田、大久保

気賀 2-2 吉原商 (得) 山田翔2

2. TOPICS

<新チーム始動>

インターハイ西部地区大会が終了し、チームは5/3（土）・4（日）・5（月）の本校同窓会館での合宿から再スタートした。新キャプテンはNO.7 山田翔也、副キャプテンはNO.4 山下翔、NO.5 川口郁也となった。3年生についてはNO.1 山田拳史、NO.2 松下欣平、NO.3 宮城谷実篤、NO.6 山本尚、NO.8 河田直希、NO.11 黒柳友揮、NO.12 古橋大喜、NO.13 耳塚和樹、NO.14 真瀬庸祥、NO.15 上島耕助、NO.24 佐藤慎也、マネージャー佐藤芹璃奈、坂本愛乃、野末依利の選手11名、マネージャー3名が選手権、ユースリーグまでチームに残ることを決めた。

次の大きな目標は、西部ユースリーグを勝ち抜き、県Cリーグへの昇格を果たすこと。選手33名（1年14名、2年8名、3年11名）、マネージャー5名（1年2名、3年3名）、スタッフ4名の総勢42名で新たなチャレンジをしていきたい。

<新コーチ紹介>

徳増 欣也（とくます きんや）

静岡産業大学4年生

ジュビロ磐田ユース（新居高校）出身

※膝の怪我のため約1年前にプレーを続けることを断念したが、現役時代は常に各カテゴリーのトップレベルでプレーしてきた経験を持つ。「指導者」は彼にとって初の経験であるが、「闘う姿勢」、「基本」が最も大切」と語るコーチがチームにもたらしてくれるものは大きいはずである。

<サッカーの名言集>

- ・「試合に負けると『審判のせいで負けた』と言ってくるチームがあるが、それが本当だとしたら、私のおかげで勝ったチームもあったということになる。だが、審判を始めて20年になるが『あなたのおかげだ』と言ってきた人は誰もいない。」

ロペス・ニエト（審判）

- ・「チームのために働いてくれた人たちなんだから、恩は忘れてはいけない。人は一人では生きていけないし、特にサッカーは、グループでやっていくスポーツなので、必ず人の助けが必要となるんですよ。そういうつながりを大切にし、チームとしての伝統を築いていくべきです。」

ノ・ジュンユン（元韓国代表、サンフレッチェ広島）

*クラブを去って行った関係者のために食事会なども開いていた。